

# 中間まとめに寄せられた意見等について

## 1. 中間まとめの記述と直接関係のあるご意見

	中間まとめ頁	関係項目	意見・提案の概要	対応状況
<b>アール・ブリュット振興のための基本的な考え方と目標について</b>				
1	7	基本的な考え方	「世の光を」という強烈な福祉イメージをテーマにすることで、アール・ブリュットが障害者アートとして知られることになり、結果として芸術文化として受け止められにくくなるのを危惧する。	
2	7	目標	滋賀が(アジアの)アール・ブリュットの拠点になるという目標が、覇権主義と受け止められることを危惧する。	
<b>滋賀県に期待される役割について</b>				
3	9	アール・ブリュットを発見する	造形の現場では、美術活動はどうしても付属的な活動と見なされ、担当職員以外はあまり関心がなく相談できなかつたり、予算が十分に付けられなかつたり、という現状がある。現場への支援を考えてほしい。	
4	9	アール・ブリュットを発見する	アール・ブリュットの作家は基本的には自ら発信しないので、代理者(アドヴォケート:擁護者、弁護士)の役割が重要になる。どういう人が代理者たるべきか問う必要があるのではないか。	
<b>今後の取組について</b>				
5	12	発信拠点の整備	美術館で収蔵するのは良いが、既に活動しているNO-MAとの連携協力だけでなく、活動のすみ分けを明確にするべき。	
6	12	発信拠点の整備	アール・ブリュット作品は、生活の中から生まれているところに魅力がある。正しく評価されることは大事だが、あまり権威付けて生活から遠ざかることがないようにしてほしい。	
7	12	発信拠点の整備	滋賀県立近代美術館が発信拠点となるのであれば、美術館の側での体制を整える必要がある。	
8	12	発信拠点の整備	作品貸出について、貸出先へのサポートも必要。	
9	13	アール・ブリュットのネットワーク構築	ネットワークには精神科病院も含めてもよいのでは。	
10	13	アール・ブリュットのネットワーク構築	アール・ブリュットの情報拠点について、資料・情報収集、学術的研究は、国内外問わず行う機関を目指すべき。	
11	14	アール・ブリュットのネットワーク構築	アール・ブリュットが、作品だけでなく、それを生み出すその人の自己表現のプロセスが評価され社会に発信されていくことを望む。	

< 対応状況欄 >

中間まとめまでに議論された事項  
 意見を受け、報告書に反映すべき事項  
 県が実施段階で検討していくべき事項

## 2. 全般的なご意見(「美の滋賀」や美術館も含めた意見など。)

	意見の概要	対応状況
12	アール・ブリュットの概念は曖昧な部分が残っている。拡張していくのか、限定していくのかははっきりさせるべき。	
13	滋賀の福祉施設で制作されてきた作品とアール・ブリュットをイコールで結んでしまっているのか疑問。デュビュッフェの唱えたアール・ブリュットとの共通点と相違点を明らかにすべき。	
14	アール・ブリュットだけが『美』ではないと思う。	
15	糸賀さんは障害ある人全てが世の光にと考えられた。『アール・ブリュット』のみを『光』とするのはどうか。	
16	アール・ブリュット発信の検討は今年だけか。継続こそ力なりと思う。	
17	「美」を柱に、行政施策を展開されるという考えに敬意を表す。「つなぐ、つながる」ことについて、地域住民とアール・ブリュットのつながりを効果的に生み出すことについて、作戦を考えていく必要がある。	
18	創作現場に携わっていると、利用者の方の作品を広く伝えるというところまでには手が足りないと感じていた。だから、このような滋賀からの発信、動きにより、利用者の方が社会に関わり、また、その周りの方達も関わっていく、大きな輪にしてほしい。	
19	この活動を通じて、障害者の文化が理解され広がることを望む。	
20	仏教美術やアール・ブリュットなどを滋賀から発信し、それらに触れるなかで、次世代の子どもたちの中から新しい才能、芸術家が出てくると思う。その人たちが発表する場やチャンスをもっと広げられないか。	-
21	アール・ブリュット、近代美術、仏教美術の3つが共存する具体的なプランはあるのか。それぞれが別々の方向に発信されてしまうのではないかということ、個別発信された時にそれが大きく育つのかということが少し不安。	-
22	近代社会=規格で秩序立てる社会を考えると、アール・ブリュットやコンテンポラリーアートをその外だと捉えるのは理解できるが、仏教美術まで括るのはやや無理があるように思う。	-
23	出張して作品を見てもらうというのは良い策だと思う。駅前で展覧会など鑑賞できるものや、作品を買うことのできる機会を増やして欲しい。売ることのできる機会は、障害のある人だけでなく若い人にとってもためになると思う。	-
24	滋賀県立近代美術館で、仏教美術、アール・ブリュットを併せて発信するのは盛り沢山だが本当に可能か。対応する施設の増設、専門職員の確保など相当ハードルが高いと思う。従来型の美術館の発想ではとても無理。革新的な取り組みが必要。	-
25	「美の滋賀」構想に美術館の意図を反映させる必要がある。	-

< 対応状況欄 > 中間まとめまでに議論された事項

- 懇話会や他の検討委員会に関する事項